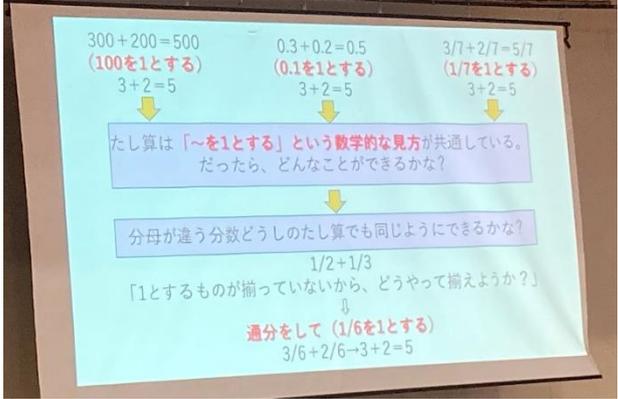


算数科教育 実技・理論研修会 終了報告

テーマ	「課題解決に自ら向かう子の育成」 ～数学的な見方・考え方を働かせる学びを通して～
日時	令和5年8月17日(木) 15:00～16:30
会場	北広島市立北の台小学校
講師	加固 希支男 氏(肩書:東京学芸大学附属 小金井小学校 教諭)
参加者	46名
研修会 の 様子	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;">    </div> <div style="flex: 2; padding-left: 10px;"> <p>今年度は、コロナ禍以前と同様に講師を招いて、参加者を参集しての実技理論研修会を行うことができました。昨年同様、講師に東京学芸大学附属小金井小学校の加固氏を招き、北広島市立北の台小学校体育館を会場として、開催することができました。</p> <p>講師の紹介後、さっそく加固氏の授業実践動画を視聴しながら、石算研の主題でもある「課題解決に自ら向かう子の育成～数学的な見方・考え方を働かせる学びを通して～」をテーマに講演が始まりました。</p> <p>講演の冒頭で加固氏は、「一度働かせた数学的な見方がどこまで使えるのか?という視点で学習を進め、既習を生かして自ら新しい知識を発見しようとする力を育てるためには、数学的な見方を言語化する(発想の源を問う)ことが重要である」とお話しされていました。</p> <p>また、数学的な見方を児童生徒が働かせるための教師の最大の役割は、一人ひとりの思考を価値付け、つなげ、高めていけるよう系統性を意識した授業作りであると述べられていました。</p> <p>今年度の石算研の研究内容にもある「発想の源を問う」上で“言語化”は土台となる重要なものであることが再認識されました。</p> <p>さらに、自らの数学的な見方・考え方を働かせる場面として「3年生 三角形を調べよう」の授業動画を視聴しました。</p> <p>個別最適な学びに関わっては、「単元を見通し、個別最適な学びを意図的に取り入れていくこと」「単に個で学びを進める学習形態を指すのではないこと」「授業の導入で一斉に本時のねらいを共有すること」この3点の重要性を挙げられておりました。</p> <p>お忙しい中、限られた時間に様々な視点からご講演いただいた加固氏、夏季休業中でありながら会場設営に尽力して下さった北の台小学校様、遠方よりご参加いただいた多くの皆様へ感謝を申し上げ、終了報告とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">(石教研算数部会副部長 紺野 丈)</p> </div> </div>